

平成29年度自己評価シート(年度末評価)

学校名 三次市立吉舎中学校

中期経営目標 (目標を設定してから6年目)								
短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	前年度	本年度		評価	達成状況	担当部等
			実績値	目標値	実績値			
1 確かな学力								
基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	個に応じた指導の工夫(個別対応)	実力テストの200点前後の生徒の得点を25点以上上げる。	—	80%	1年0% 0% 2年64% 3年88%	B	3年生は達成したが、1・2年生は大きく下回った。	教務部
		保護者の満足度(アンケート「学力を高める取組をしている」)	96%	95%	95.5%	A	目標値を達成できた。	
「自学力」の育成(主体的に学ぶことのできる授業の創造)	・課題解決型の授業の実施 ・「自学力育成ルーブリック」による授業改善 ・読書習慣の定着(読む・創造する力)	予習・復習を自主的に行っている	予習83% 復習83%	予習85% 復習85%	予習85.7% 復習87.1%	A	予習復習とも、目標値を達成できた。	
		『「自らもって学びたい・知りたい・調べたい」授業がある」と答える生徒の割合	86%	90%	87%	B	目標値には達成できなかった。	
		本を1か月に1冊以上読む生徒の割合	—	75%	74.3%	B	目標値には達成できなかった。	
		1教科1単元の「ルーブリック」の作成	—	100%	100%	A	目標値を達成できた。	
90分以上家庭で学習できる生徒の育成	吉舎型授業スタイルの徹底 ・家庭学習とリンクした授業の実施	家庭学習90分以上の生徒の割合(アンケート)	1年88.3% 2年85.7% 3年86.6%	90%	1年85.7% 2年78.2% 3年88.4% 全体84.2%	B	全学年とも目標値が達成できなかった	
		家庭学習の定着における保護者の満足度(アンケート)	83%	85%	84.8%	B	目標値には達成できなかった。	

【評価結果の分析】

- ・「実力テスト200点前後の生徒の得点を25点以上上げる」の項目については、1年生のデータの取り方や対象生徒の決定の方法を検討(テストの問題の難易度が1回目と2回目では、かなり違うので2回目以降比較する必要がある)する必要がある。
- ・保護者の満足度アンケートは、目標値を達成できなかったが、学校の取組を少しずつ理解していただいている。
- ・家庭学習は、毎日行うというよりは、土日に時間をかけて学習している傾向がみられる。

【次年度に向けての改善方策】

- ・個別で学習カウンセリングをする等して家庭学習にも支援していく。(中間試験終了後、昼休憩・放課後で)
- ・HPの更新を毎日行うことで、新しい情報を常に保護者へ知らせることができ、また、マメールで、各月の行事予定を知らせることで、効果があったので、引き続き取り組みを継続していく。さらに、新入生説明会やPTA総会等で呼びかけマメールの加入率を上げていく。
- ・各教科で計画的、継続的に課題を出すことで、家庭での学習の定着をよりはかっていく。

2 豊かな心							
生徒の主体性・自己有用感の向上	・生徒会委員会活動の活性化	生徒の満足感(アンケート「活発だと思う」)	1年 96.2% 2年 89.3% 3年 93.3%	90%	1年 100% 2年 95.6% 3年 96.1% 全体 97.1%	A	目標を大きく上まった。
	部活動、自主的ボランティア活動、体験活動・地域貢献活動の充実	生徒の満足感(アンケート「周りから認められている」)	1年 69.2% 2年 42.9% 3年 76.7%	70%	1年 71.4% 2年 73.9% 3年 38.4% 全体 60.0%	B	目標値には達成できなかった。
		生徒の自己肯定感(アンケート「良いところがある」)	1年 73.1% 2年 42.9% 3年 73.3%	75%	1年 80.9% 2年 69.5% 3年 38.4% 全体 61.4%	C	目標値を大きく下回った。
		生徒の自己有用感(アンケート「学校では、やり遂げられて入れしく思う行事がある」)	—	100%	1年 90.4% 2年 100% 3年 80.7% 全体 90.0%	B	目標値には達成できなかった。
礼節と規範意識の定着	・吉舎中3か条の徹底	生徒アンケート(授業、生活、環境)	学習 91% 生活 86% 環境 90%	授業 90% 生活 90% 環境 95%	授業 94.8% 生活 93.3% 環境 91.4%	B	目標値には達成できなかった。

【評価結果の分析】

- ・生徒会の自主的な活動を仕組むことで、どのように動けばよいか理解し、自分たちで考え行動できるようになった。
- ・生徒の満足感は、教職員の肯定的な評価をしっかりと行ってきたが、生徒同士の肯定的な評価活動が不十分であった。
- ・自分のよさを感じ取れる場面を意図的に仕組むことが不十分であった。
- ・環境に関わっては、注意喚起されないと、整理整頓の状況が維持できない生徒がいる。

【次年度に向けての改善方策】

- ・生徒が前面に出るように、事前の打ち合わせをしっかりと行い、自らが考えて動けるように、意図的に生徒の活躍の場を与える。
- ・様々な活動の中で、生徒同士のかかわりをしっかりと持たせ、生徒同士の肯定的な評価ができるようにする。また、どいう姿が自分の目標であり、今の段階での具体的な目標とどうなのかを判断させないと、自分の目指す姿が高い生徒は自己肯定感が上がらない。
- ・生徒会委員会を中心にロッカーや机の中など身近な所の整理整頓ができるように取り組む。

3 健やかな							
1年間を通して基礎体力の向上を図る	・体力テストを2回実施、目標設定し、2回目の数値を向上させる	8種目中、5種目以上数値が向上する生徒の割合	—	80%	72.7%	B	目標通り個人で見るときは目標値は達成できなかったが、全体で見ると目標値に達している。

【評価結果の分析】

- ・学校全体では、8種目のうち、学年で上がっていなかった種目は、1年生女子3種目、2年生女子2種目、3年生男子1種目であった。

【次年度に向けての改善方策】

- ・引き続き体育科での授業や部活動で意識して取り組むとともに、小学校からの基礎体力が向上できるように連携していく。